

## 令和7年度 第1回学校運営協議会 議事録

日時：令和7年6月4日（水） 15:40～17:00

会場：本校会議室

司会 石原副校長 書記 広報連携Gr

### 【次第1：委員委嘱】

後藤 宗治委員	神奈川工科大学教職教育センター支援室
小木 朝美委員	東栢山城北自治会長
宮内 宏人委員	桜井地区自治会連合会長
府川 悟志委員	小田原市役所市民部地域政策課職員
小林 大悟委員	小田原箱根商工会議所経営支援部経営支援二課長
桑原 光 委員	小田原市立桜井小学校長
富田 雅浩委員	小田原市立城北中学校長
小松 秀樹委員	P T A会長
石川 晋吾委員	校長

欠席委員 富田 雅浩委員

### 【次第2：校長挨拶】 資料「令和7年度の小田原城北工業高校」（校長）を参照

石川校長： 城北工業高校が昭和36年度に開校し64年を経た今年、令和7年度が最終年にあたる。

本校の概要についてはA4の資料「令和7年度の小田原城北工業高校」を基に説明したい。

1. 在籍状況は全日制365名、定時制30名。
2. 学校教育目標、グランドデザインについて教職員が立てる目標設定においては、「インクルーシブな授業づくり」を念頭に置くことが県全体レベルでの重点目標とされている。来年度からはクリエイティブ入試で入学してくる大井高校の生徒達と共に学ぶことになる。私たち教職員の指導感も変えていかなければならない。「インクルーシブな授業づくり」を今年度の指導目標の一つとして掲げることとした。
3. 令和7年度入学者選抜の選考基準については全日制で変更を加えた。これまで調査書の数学と理科を重点化するというメッセージ掲げていたが、これを廃止した。技術家庭科および美術の重点化は残しつつ、入学のハードルを下げ、入学後の指導重視をアピールすることで特色をより際立たせることとした。
4. 省略
5. かながわ子どもサポートドックについて、今年度もアンケート集約からプッシュ型面談の実施、SC,SSWとの連携を通じて全職員チームで生徒が安心した学校生活が送れるよう対応していく。
6. 来年度より中・県西地域普通科（クリエイティブスクール）専門学科（工業科）併置校としてスタートするが、ハード面ソフト面で整備を進めている。
7. 令和7年度の学校運営課題1～7については資料の裏面を参照されたい。

### 【次第3：内容】

#### (1) 本年度の委員長について

司会の石原副校長より「昨年度に引き続き後藤委員に委員長をお願いしたい」という提案を受け満場の拍手で承認される。

#### 委員による自己紹介

後藤 宗治委員長	神奈川工科大学教職教育センター支援室
小木 朝美委員	東栃山城北自治会長
宮内 宏人委員	桜井地区自治会連合会長
府川 悟志委員	小田原市役所市民部地域政策課職員
小林 大悟委員	小田原箱根商工会議所経営支援部経営支援二課長
棄原 光 委員	小田原市立桜井小学校長
小松 秀樹委員	P T A会長

欠席 富田 雅浩委員 小田原市立城北中学校長

#### 副校長以下第1回参加職員による自己紹介

石原 英之	副校長
鎌田 千春	全日制教頭
佐藤 秀世	定時制教頭
秋澤 世津子	事務長
三杉 和彦	全日制 生活指導G教諭（近藤総括教諭は欠席）
能政 広毅	全日制 学校管理運営G総括教諭
中島 勉	全日制 進路指導G総括教諭
三浦 茂和	全日制 工業教育推進G総括教諭
杉山 弘明	全日制 生徒支援G総括教諭
鈴木 秀昭	全日制 学務G総括教諭
三浦 茂和	全日制 広報連携G総括教諭
千葉 正郎	定時制 生徒支援G総括教諭
井上 正隆	定時制 学務・管理G総括教諭
飯嶋 猛二	全日制 広報連携G（書記）

#### (2) コミュニティースクールについて

副校長より資料1「神奈川県立高校のコミニティースクール」A3を基に説明

#### (3) 協議

これより進行を後藤委員長に交代

ア 令和6年度学校評価報告書（実施結果）及び令和7年度学校評価報告書（目標設定）について

### **三杉 和彦 全日制 生活指導G教諭**

資料（2）：令和6年度学校評価報告書（実施結果）（全日制）2.生徒指導・支援①  
資料（4）：令和7年度学校評価報告書（目標設定）（全日制）2.生徒指導・支援①  
資料（6）：学校運営協議会会議資料（全日制グループ報告）1枚目裏面  
を基に説明

### **能政 広毅 全日制 学校管理G総括教諭**

資料（2）：令和6年度学校評価報告書（実施結果）（全日制）5.学校管理・学校運営①②  
資料（4）：令和7年度学校評価報告書（目標設定）（全日制）5.学校管理・学校運営①②.  
資料（6）：学校運営協議会会議資料（全日制グループ報告）1枚目表面  
を基に説明

### **中島 勉 全日制 進路指導G総括教諭**

資料（2）：令和6年度学校評価報告書（実施結果）（全日制）3.進路指導・支援  
資料（4）：令和7年度学校評価報告書（目標設定）（全日制）3.進路指導・支援  
資料（6）：学校運営協議会会議資料（全日制グループ報告）3.4.5枚目  
を基に説明

### **三浦 茂和 全日制 工業教育推進G総括教諭**

資料（2）：令和6年度学校評価報告書（実施結果）（全日制）1.教育課程・学習指導②  
資料（4）：令和7年度学校評価報告書（目標設定）（全日制）1.教育課程・学習指導②  
資料（6）：学校運営協議会会議資料（全日制グループ報告）6枚目  
を基に説明

### **三浦 茂和 全日制 広報連携G総括教諭**

資料（2）：令和6年度学校評価報告書（実施結果）（全日制）4.地域等との協働①②  
資料（4）：令和7年度学校評価報告書（目標設定）（全日制）4.地域等との協働①②  
資料（6）：学校運営協議会会議資料（全日制グループ報告）1枚目  
を基に説明

### **杉山 弘明 全日制 生徒支援G総括教諭**

資料（2）：令和6年度学校評価報告書（実施結果）（全日制）1.教育課程・学習指導③  
資料（2）：令和6年度学校評価報告書（実施結果）（全日制）2.生徒指導・支援②  
資料（4）：令和7年度学校評価報告書（目標設定）（全日制）1.教育課程・学習指導③  
資料（4）：令和7年度学校評価報告書（目標設定）（全日制）2.生徒指導・支援②  
資料（6）：学校運営協議会会議資料（全日制グループ報告）1.2枚目部活動実績  
を基に説明

### **鈴木 秀昭 全日制 学務G総括教諭**

資料（2）：令和6年度学校評価報告書（実施結果）（全日制）1.教育課程・学習指導①  
資料（4）：令和7年度学校評価報告書（目標設定）（全日制）1.教育課程・学習指導①

資料（6）：学校運営協議会会議資料（全日制グループ報告）1枚目  
を基に説明

### 井上 正隆 定時制 学務・管理G総括教諭

資料（3）：令和6年度学校評価報告書（実施結果）（定時制）1.教育課程・学習指導①②  
資料（3）：令和6年度学校評価報告書（実施結果）（定時制）4.地域等との協働①②  
資料（3）：令和6年度学校評価報告書（実施結果）（定時制）5.学校管理・学校運営①②  
資料（5）：令和7年度学校評価報告書（目標設定）（定時制）1.教育課程・学習指導①②  
資料（5）：令和6年度学校評価報告書（目標設定）（定時制）4.地域等との協働①②  
資料（5）：令和7年度学校評価報告書（目標設定）（定時制）5.学校管理・学校運営①②  
資料（6）：学校運営協議会会議資料（定時制グループ報告）  
を基に説明

### 千葉 正郎 定時制 生徒支援G総括教諭

資料（3）：令和6年度学校評価報告書（実施結果）（定時制）2.生徒指導・支援①②  
資料（3）：令和6年度学校評価報告書（実施結果）（定時制）3.進路指導・支援①②  
資料（3）：令和6年度学校評価報告書（実施結果）（定時制）1.教育課程・学習指導③  
資料（5）：令和7年度学校評価報告書（目標設定）（定時制）2.生徒指導・支援①②  
資料（5）：令和7年度学校評価報告書（目標設定）（定時制）3.進路指導・支援①②  
資料（5）：令和7年度学校評価報告書（目標設定）（定時制）1.教育課程・学習指導③  
資料（6）：学校運営協議会会議資料（定時制グループ報告）  
を基に説明

### 質疑応答

後藤委員長

全教職員で「インクルーシブな授業づくり」を目標立てし、誰もが理解しやすい授業を研究継続していくというについてもう少し具体的な説明を聞きたい。

石川校長

「インクルーシブな授業づくり」の定義については、生徒一人ひとりにとって分かり易い授業を目標とした。管理職による前期授業観察で、生徒の立場から見て分かり易いのか、また管理職の目からはどうなのかを検証し、後期授業観察に反映できるようになげていきたい。

後藤委員長

あと1年で新校がスタートする。最後の1年、受け入れに向けた教育設備の整備などハード面はもちろんのこと、ソフト面でもシステムの見直し、新たなルール作りなど先生方のご苦労は計り知れないと思われる。両校の生徒達のために頑張ってもらいたい。

小木 東栢山城北自治会長

城北工業高校は地域の防災避難所として位置づけられているため、合同の防災訓練を実施してもらうなど大変心強く思う。自治会行事などへも参加してもらっている。今後も学校の広報活動で自治会の回覧システムなどの積極的な活用に向けて協力したい。

宮内 桜井地区自治会連合会長

先生たちの働き方改革を推し進めながらインクルーシブな授業づくりへの取組みを推し進めていくことは大変だなと思う。

ものづくりコンクールでの上位入賞結果や運動部の活躍などを地域住民にもっともっとアピールしてもらいたい。地域住民の学校へのイメージが良い意味で変わっていくと思う。

一方、学校側から地域に臨むことがあれば伺いたい。地域で共生して行く上で課題を共有することは有意義だ。

児童生徒が自発的に課題を見つけ自発的に考え、問題解決に向けて取組むというスローガンは小学校の児童や、中学校の生徒に対しても言われている。高校生のレベルではどのような取組みをしているのか。

インターフィップに対する今年度の取組みについて伺いたい。

三浦 茂和 全日制 広報連携G総括教諭

本校のホームページを回覧用の紙面にして回覧に活用していただけると思う。

宮内 桜井地区自治会連合会長

学校のホームページが閲覧できることは地域住民も知っているが、わざわざ見ようとはしない。自治会内での回覧システムの活用は有効だと思う。

中島 勉 全日制 進路指導G総括教諭

地元の製造業の企業から本校生徒に対してインターフィップの受け入れの話をもらっている。また小田原市の水道局から土木・機械・電気関連の業務に本校限定で受け入れの声をかけて頂いた。それぞれ生徒へ広報し積極的に取り組むよう指導したい。

府川 小田原市役所市民部地域政策課

地域政策課という立場から何点か質問したい。

年間を通して様々な防災訓練を実施されているとのこと。小田原市では地域一斉防災訓練を実施していて、こちらの地区では桜井小学校を会場にして実施している。地域連携の視点から高校生の部活動での参加など考えられないか。

また同様の視点では「クリーン酒匂」という酒匂川の清掃活動が行われている。こちらの活動への部活動単位での参加も取組みやすいのではないか。

会議の前に建設科の工場を見学したが、授業で製作した作品を地域に配布したり配置する事は出来ないか。生徒にしてみても自分が作ったもの地域で活用されてい

るという体験はモチベーションが上がるのではないか。

能政 広毅 全日制 学校管理G総括教諭

地域と合同で実施する防災訓練について、6/28 の 1 回目は本校の水害時一時避難場所の見学会を実施。2 回の 12/13 は生徒も参加した訓練を予定している。桜井小学校での一斉防災訓練への参加については今後検討していく。

井上 正隆 定時制 学務・管理G総括教諭

定時制は毎年地域と合同の夜の避難訓練として実施している。本年度は 11/6(木)実施予定している。生徒は学校の教室が緊急時の避難場所に使われるということで緊張感をもって取り組んでいる。

三浦 茂和 全日制 広報連携G総括教諭

建設科の「歴史的建造物の改修」というテーマの出前授業で、小田原市と協力して現地に赴いて活動している事例もある。

小林 小田原箱根商工会議所経営支援部経営支援二課長

仕事柄地場産業を担当していることから、「学校評価報告書 4 の地域との協働、地域産業との連携」について大変興味がある。

近年箱根寄せ木細工や木工の分野で地域の若手職人の活躍が目立っている。26 年 11 月にパシフィコ横浜を会場に全国の伝統工芸作品が一堂に会する「工芸 EXPO」が開催される。地場産業振興の観点からカリキュラムの中で伝統工芸に触れる時間などを取り入れてもらえると有効ではないか。

地場の産業と連携した教育活動があったら紹介してもらいたい。

三浦 茂和 全日制 広報連携G総括教諭

デザイン科では地元の環境整備会社と連携してパッカー車の外装デザインとペイントの作業に毎年取り組んでいるが今年で 33 年目になる。

授業では木工で寄せ木細工を取り入れている。

棄原 小田原市立桜井小学校長

小学校として地元の高校とどのような連携が出来るのか 1 年間模索してきたがなかなか難しいテーマだと思う。昨夏「夏休み親子ものづくり体験教室」の案内をもらい児童保護者に紹介したが、どのくらいの児童が参加したのか把握はしていない。ただ小学校から高校へ発信できるものがあるかこれからも考えていきたい。会議の前に授業を見学させてもらったが、小学生が見学しても魅力を感じる授業が沢山あり紹介していきたい。

三浦 茂和 全日制 工業教育推進G総括教諭

昨夏の体験教室の参加者は児童の人数で 10 名、うち桜井小学校の児童は 3-4 名だった。

小松 P T A会長

これまで2年間副会長を務め、今年度が最後の年になる。

学校の動向や行事について知る手段は基本的には子供たちから受け取る配付物で、次に学校から配信されるマチコミメールが媒体になっているが、マチコミメールについては受け手の保護者側の様々な事情でタイムリーな情報を逃してしまったという話を耳にすることがある。学校からの情報が保護者側に実効的に届くような情報伝達手段・マチコミを超えるようなシステムを考えられないかと思う。

最後の1年を活動する上で、新しい学校が誕生しても「小田原城北工業高校」という歴史をふりかえられるようなものを「何か」残したいと思っている。同窓会の方も、地域の方も、また一方の大井高校の関係者も含めてお互いの軌跡を振り返ることが出来る何かを「カタチ」に残して新しい学校に繋げていきたいと考えている。

以上で協議（ア）修了

イ 新校のスクール・ポリシーについて（石川校長より）

資料7 新校スクール・ポリシー

参考資料1 新校スクールミッション

同2 新校グランドデザイン

同3 新校設置計画

を基に説明

スクール・ポリシーとは入学者受け入れのための方針である。

グラデーション・ポリシーとして「卒業までにこのような力を身につけます」。

カリキュラム・ポリシーとして「本校ではこのような学びを行います」。

アドミッション・ポリシーとして「本校ではこのような生徒を求めていきます」。

という3つのポリシーから成り立ち、内容を具体的に説明したもので、新校を目指す中学生に伝える事を目的としている。

作成には

資料のスクールミッション、グランドデザイン、設置計画などの文言を参考にした。時間が限られるがこの場で協議後、承認いただき県へ提出したい。

承認。

司会・新校交代し副校長へ

【次第4：情報交換】

特になし

【次第5：その他】

次の第2回学校運営協議会は11月に予定。

日程調整の連絡後開催日をあらためて連絡。

17時10分閉会